

手話と字幕でエイズ予防

耳の聞こえない人にもエイズウイルス(HIV)の正しい知識を広めようと、自身も耳が聞こえない映画監督今村彩子さん(39)が、手話と字幕を使った感染予防動画を制作した。世界エイズデーの12月1日に動画投稿サイト「ユーチューブ」などで無料公開し、ダウンロードも可能にした。「情報格差をなくし、たくさんの人に見てほしい」としている。

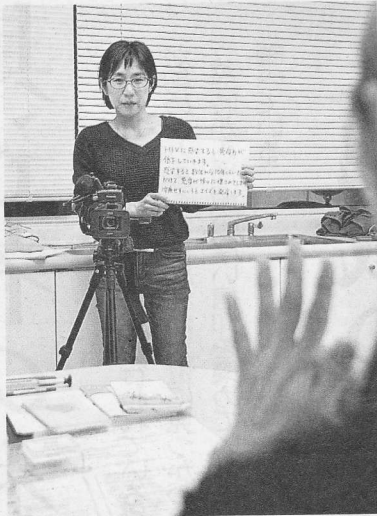
約15分の動画では、専門医や手話通訳者が、感染経路や検査を受ける方法、感染しても治療で長生きできることなど基本知識を説明。感染者へのアンケートで得られた体験談も紹介し、「死にたい」とまで思い詰めた苦しい経験や、別の感染者と出会い、救われた話も

啓発動画を制作、公開

は、2019年1月末までインターネット上のクラウドファンディングで

募集している。これまで、ろう者や難聴者をテーマにしたドキュメンタリーを撮ってきた今村さん。自ら自転車などで日本を縦断した作品や、耳が聞こえない性的少数者(LGBT)の存在にスポットを当てた教材用のDVDなどを制作してきた。今回、HIVの感染予防動画を撮ろうと思ったきっかけは、支援・啓発団体の代表から「感染者には耳が聞こえない人も多い」という話を聞いたこと。その場で制作を申し出たが、その後自分分の勉強不足を思い知らされた。撮影を通し、ろう者や難聴者がコミュニケーションの壁により、一般の相談窓口などにアクセスしづらい実態があることも知ったという。東京で開いた鑑賞会では、特別支援学校の教諭が「手話の教材は少ないのでとても役に立つ。イラストや字幕も付いている。て分かりやすい」と評価。別の元教諭からは「一般の学校に通うろうや難聴の生徒も、聞こえる生徒と一緒にHIVを学ぶことができる」との感想が寄せられた。

聴覚障害の映画監督



▶病院での撮影に臨む映画監督今村彩子さん
11月、名古屋市中区
▶今橋真弓医師(右)と手話通訳者によるHIVの感染予防動画(ユーチューブから)

名古屋医療センター 臨床研究センター



日本では 自分の感染に気づいている人が7~8割とされています